

<コンドームを必ず使用したくなる教育方法への一提案>

要 旨

若者たちが、コンドームを継続的に使用するか否かは、1回目の性行為の状況にかかっているとされている。初回の性交時に確実に着けられるためには、その意義を理解し、具体的な方法を知っている必要がある。

コンドームなしでの性行為の場合、たった1回、パートナーが一人の性行為でも、性感染症のリスクは、相手が感染者であれば高く、望まない妊娠のリスクは、ピルを正しく服用しない限り30~40%であると考えられる。

それら性感染症罹患と望まない妊娠のリスクに関する効果的な教育方法は、今時の若者が強く関心をよせる清潔・抗菌・消臭の意識とリスク管理の視点で、微生物の特徴と感染・増殖、卵と精子特性と妊娠の予防について、実際の映像で正確に記憶させることが重要である。

その結果、性感染予防や避妊のためにはどう行動すればよいか、高校生が自ら考え、効果的な性に関するライフスキル（正確な知識をもつ、効果的なコミュニケーションができる、コンドームの正しい扱い方ができる）を身につけられるよう、ピア（仲間）としての大学生が関わっての実践的教育場面を提示し、意見交換の場としていきたい。

演者紹介

略歴： 上澤 悦子（かみさわ・えつこ） 現職： 北里大学看護学部専任講師

〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部

1974年 神奈川県衛生看護専門学校助産科卒、聖マリアンナ医科大学東横病院勤務、その間放送大学卒業、神奈川県立看護教育大学校非常勤講師兼任

1999年 北里大学看護学部母性看護学・助産学専任講師

2002年 東亜大学大学院人間総合学術研究科（人間学修士）終了

2003年より母性看護学ゼミにおいて、地域保健所と協働による中高校生を対象にした看護学部生による性のグループピアカウンセリングを実践。

専門分野と研究活動

助産学、生殖年齢におけるウイメンズヘルスおよび母性看護学を専門とし、主に思春期、成熟期のヘルスケア教育と研究活動を行っている。主な研究テーマは文部省科研費補助「生殖補助医療を受けている不妊夫婦への健康支援」および「思春期のSTD予防に関する実践的教育」である。

現在の学会活動は、日本不妊カウンセリング学会理事、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本不妊学会、日本看護診断学会会員。

共同演者

北里大学看護学部生 3～4 学年の学生 4～5 名程度（添付写真の中の数名、最前列中央が上澤講師。2004 年 8 月撮影）

学生は、ヒトの胎生期から生涯を通じた生殖・性の発達、性の健康と逸脱に関する授業を終了し、これまでに中学生・高校生を対象とした性の健康教育に数回参加している。



公開講座ですので、取材はご自由ですが、両先生を通じて、次のことをおねがいたします。

- 1) 壇上演者の発言内容を主体として記事・番組を構成される場合は、ご本人に一言お断りねがいます。
- 2) 参加観衆を TV・ビデオ・写真撮影をされる場合は、後方から入れるようにおねがいたします。正面から顔を映すときは、司会者から会場にお断りを入れますので、予めその旨事務局にお申し出ください。
- 3) 懇親会での発言は、会の趣旨からして、すべてオフレコとしてください。それを報道される場合は、必ずその場で直接、発言者本人の了解を得てください。
- 4) 掲載紙誌、放映日時は、ご本人及び事務局に送付、お知らせねがいます。